

戦略区分	戦略1 若年女性の活躍！雇用創出戦略！			整理 No.	1-1							
戦略事業名 (予算事業)	「自然☆女」獲得大作戦事業	担当課	農林水産振興課									
	(「自然☆女」獲得大作戦事業 (就農総合支援事業))	H28 実績額	1,854 千円									
		H29 予算額	3,701 千円									
事業の概要	<p>学生を中心とした若者の農業体験を受け入れ（交通費等助成、体験場所・内容等）、農業者と若者の交流を図るとともに、広く町を知ってもらい、来てもらい、住んでもらうきっかけづくりを推進する。</p> <p>また、女性の就農を支援するため、受入農家等に対し、女性従業員用住宅（アパート等）の家賃補助を行う。</p>											
これまでの実績	<p>体験農業参加者 延べ参加人数 154 人 女性従業員用住宅については、平成 29 年度新規事業</p>											
KPI・数値目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>数値目標</th> <th>現状</th> <th>KPI 達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農林水産業に新規従事した女性の人数 (H26 -)</td> <td>(H31) 累計 10 人</td> <td>(H28 末) 4 人</td> <td>40%</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	数値目標	現状	KPI 達成率	農林水産業に新規従事した女性の人数 (H26 -)	(H31) 累計 10 人	(H28 末) 4 人	40%			
評価指標	数値目標	現状	KPI 達成率									
農林水産業に新規従事した女性の人数 (H26 -)	(H31) 累計 10 人	(H28 末) 4 人	40%									
今後の取組	<p>現在は、大学生を中心とした農業体験が中心であるが、当該事業を通じ、1次産業新規従事者の確保につなげていきたい。</p>											
今後のPR・方向性	<p>平成 28 年度においては、京都学園大学及び近畿大学の学生が体験農業に参加したが、平成 29 年度以降は、学生まちづくりコンテスト参加大学等に広く周知し、農業に興味ある学生が気軽に参加できるよう事業を進めていきたい。</p>											

当該事業における成果と課題（各課で記載）


成 果	2 大学延べ 154 名の学生が体験農業に参加し、おい町に来て・体験して・交流することができた。当該事業を通じて、1 名が町の地域おこし協力隊として就任しており、移住につながる一定の成果をあげている。
課 題	本事業を広く周知していくこととしたいが、単に全ての大学に無差別に参加を依頼するのではなく、町と協定を締結している大学や学生まちづくりコンテスト参加大学等に的を絞り、制度の周知を図っていくこととしたい。 農業体験を通じて新規就農する者は少数であると考えられるため、農業と関わり合いの深い農業系学部の学生を中心に制度を周知していくといった方法も検討していく。

総合政策課ヒアリング結果（※総合政策課ヒアリング後に加筆）

評価結果	・現状は女性の就農に向けた情報発信や支援となっているが、女性を雇用した農業法人に対する支援など一歩踏み込んだ取組も期待される。また、町ホームページ等における情報発信も必要。
K P I 達成状況・見直し	・現状の推移では目標達成は難しい状況であるが、継続した取り組みを進める。
その他	・特になし。

外部有識者 評価委員会の結果（※評価委員会後に加筆）

評価結果・指摘	農業体験の大学生の意向の確認や第 1 次産業に関係する大学や高等学校へも積極的なアプローチを行い、若い活力の確保に努められたい。
----------------	--

戦略区分	戦略1 若年女性の活躍！雇用創出戦略！				整理 No.	1-2
戦略事業名 (予算事業)	「自然☆女」獲得大作戦事業		担当課	農林水産振興課		
(「自然☆女」獲得大作戦事業(就農・起業女子応援事業))		H28 実績額	－ 千円			
		H29 予算額	5,384 千円			
事業の概要	<p>平成28年度に実施した学生まちづくり政策コンテスト最優秀賞を受賞した「就農・起業女子応援事業」(関西学院大学大熊研究室)を事業化したものであり、その内容は、①地域活性化情報誌制作 ②就農・起業に関するフォーラムの開催 ③バスツアーの実施 で構成されている。その他、当該学生が町民と交流しながら町の良いところを引き出していく「ひ・み・つ」アート企画を実施する。</p>					
これまでの実績	<p>平成29年度新規事業</p>					
KPI・数値目標	評価指標	数値目標		現状	KPI 達成率	
<p>農林水産業に新規従事した女性の人数 (H26 -)</p>		<p>(H31) 累計10人</p>		<p>(H28末) 4人</p>	<p>40%</p>	
今後の取組	<p>事業実施初年度であるため、本年度の事業成果を踏まえ、継続実施をする方向で検討していくこととしたい。</p>					
今後のPR・方向性	<p>第1次産業への就業希望を持つ女性に対し、関心を高める情報を少しでも多く提供していくことが必要である。</p>					

当該事業における成果と課題（各課で記載）

成果	新規事業
課題	本事業の実施に向けては、チラシや町のホームページを活用するなど、有効な町外者へのPR方法を検討していく。また、本事業の継続実施の判断については、今年度実施の経過を踏まえて行う。

総合政策課ヒアリング結果（※総合政策課ヒアリング後に加筆）

評価結果	・新規事業であることから、今年度の経過を注視する必要がある。
KPI達成状況・見直し	・現状の推移では目標達成は難しい状況であるが、事業の実施を踏まえて検討する。
その他	・特になし。

外部有識者 評価委員会の結果（※評価委員会後に加筆）

評価結果・指摘	（個別に言及なし）
---------	-----------

戦略区分	戦略1 若年女性の活躍！雇用創出戦略！			整理 No.	2								
戦略事業名 (予算事業)	地域おこし協力隊支援事業	担当課	総合政策課 生涯学習課										
事業の概要	<p>都市部の意欲ある人材を受け入れて地域協力活動を行ってもらうことによる地域の活性化を目的とした「地域おこし協力隊」を募集し、隊員と町との協働で、新たな形の地域おこしを行うとともに、隊員の定住・定着を図ることで、地域の維持・強化を図る。</p> <p>また、暦会館での土御門家及び暦に関する調査研究・発信活動並びに大飯図書館・史料館での「ニソの杜」等に関する調査研究及び郷土資料の管理等の活動を希望する隊員を1名ずつ募集する。</p>												
これまでの実績	<p>平成27年度より地域おこし協力隊の受け入れを開始、平成28年度は1名が着任し、平成29年度も継続して活動する。</p> <p>また、平成29年4月から新たな隊員が着任した。</p> <div data-bbox="1592 687 2107 715" style="float: right;"> <small>[移住イベントにて移住者目線での町のPRを行った]</small> </div> <div data-bbox="1655 727 2040 1015" style="float: right;">  </div>												
KPI・数値目標	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">評価指標</th> <th style="width: 50%;">数値目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現役地域おこし協力隊及び町内在住OBの人数 (H26 -)</td> <td>(H31) 7名</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	数値目標	現役地域おこし協力隊及び町内在住OBの人数 (H26 -)	(H31) 7名		<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">現状</th> <th style="width: 50%;">KPI達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(H29.7) 2名</td> <td>29%</td> </tr> </tbody> </table>	現状	KPI達成率	(H29.7) 2名	29%	<div data-bbox="1655 1042 2040 1329" style="float: right;">  </div>	
評価指標	数値目標												
現役地域おこし協力隊及び町内在住OBの人数 (H26 -)	(H31) 7名												
現状	KPI達成率												
(H29.7) 2名	29%												
今後の取組	<p>上記の地域振興、暦会館及び大飯図書館・史料館の他、漁業従事希望者等も含めて、地域おこし協力隊の募集を引き続き実施する。</p>												
今後のPR・方向性	<p>協力隊の募集にあたり、活動内容を明確に示すなど、隊員と町、双方の活動内容に関するマッチングを行うとともに、3年間の活動終了後の定住に向け、隊員の活動終了後の目標の明確化及び町としての定住に向けた支援策を検討していく必要がある。</p>												

当該事業における成果と課題（各課で記載）

成 果

平成28年度は3名の協力隊の着任を目標としていたが、平成28年7月より1名の着任があり、地域の魅力を活かしたグリーンツーリズムをはじめとする、おおい町の観光に関する多様な活動を行ってもらうことにより、町のPRを図ることができた。

また、平成29年度の募集に向けて、各移住イベントや県主催の地域おこし協力隊募集ツアーに参加した結果、地域要件等による選考を経て、新たな隊員の着任が決定した。

課 題

現在は、「おおい町に来てもらう」ことに重点を置き隊員を募集しているが、今後は、本来の目的である地域への協力・地域の活性化を担う活動をしてもらうため、まず町として協力が必要な課題及び隊員の活動内容を明確にし、募集を行う必要がある。また、3年間の活動終了後の定住に向け、どの程度まで支援を行うのか、他の移住者との不平等が生じないように、検討していく必要がある。

総合政策課ヒアリング結果（※総合政策課ヒアリング後に加筆）

評価結果

・地域おこし協力隊への適切な課題設定が求められる。また、住居の確保が困難な状況であるなど、隊員を取り巻く環境等の改善について、引き続き進めることが必要であると考えられる。

K P I 達成状況・見直し

・隊員の確保及び定着に向けて、PDCAを回しつつ取組を進める。

その他

・募集の方法、活動内容のマッチングの重視、雇用等の形態について見直しが必要。

外部有識者 評価委員会の結果（※評価委員会後に加筆）

評価結果・指摘

年齢や経験などの採用条件をしっかりと設定して活用してほしい。